

派遣の未来に求めたいこと

ペンネーム『三人のママ』

私が大手銀行に女子一般職で入社した時、時代はバブル全盛だった。一つの支店に12名の新人が配属され、100名の正社員が働いており、繁忙日にはロビーに60人待ちの表示が点灯した。

良くも悪くも当時の社会全体の勢い、活気を思うと隔世の感がある。日本全が意気消沈してしまっているように感じるし、少子高齢化が進み、国の形もあり方も大きく変わっていると思う。

派遣という働き方は変化の時代の荒波の中に生まれ、しっかりと変化に対応して日本の産業を支えてきたと思う。

私は銀行で十数年勤めたのち、妊娠を機に退職し、専業主婦として三人の子育てをした。三人目が1才をすぎると、家計のやりくりのために、また自分自身のためにも働きたいと思うようになった。最初は週数回コールセンターで勤務した。子供が小さいうちは家族に見てもらえる時間も限られているし、急な欠勤もおこりがちなので、勤務時間帯や曜日、勤務場所を選べる派遣の仕事は大変にありがたかった。子供の成長に連れて少しずつ時間を増やし、また自信がついてくると、契約が切れれば時給の高い仕事を選ぶようになった。いろいろな職種の職場を経験できるのも、正社員では体験できない派遣の利点だ。同期入社同士で、気の合う仲間にも出会えた。

もちろんその柔軟性の反面、派遣で働けば契約切れというものがある。気に入った仕事であってもいつまでも続けられるとは限らない。変化の早い通信業界では、プロジェクト自体がなくなることもよくある。切なくはあるが、そういうものという割り切りも必要だ。

時代の移り変わりに合わせて変化しなければいけないのは、派遣業界に限ったことではないと思うが、最近のマスコミの派遣業界へのバッシングは、長引く不況へのイライラの責任転嫁のようにも思える。不況からの脱出、新たな日本の将来のために、派遣業界をどう使うかという、建設的な意見をもっと出してほしいと思う。

これからの派遣業界が何をすべきか、というテーマは難しいが、一派遣社員として求めたいのは、安全性、透明性、公共性だろうか。

シンポジウムの中で、柔軟性を維持しつつ、失業の危険に対し安全性を高めたいという話があったが、とてもありがたい。われわれの働き方に対する要求は多様で、あえて短期間のみ働きたいという場合もあるので、きめ細かい対応が必要だと思うが、若干の配慮があれば社会問題になるような事件のいくつかは防げたように思う。

また日々の勤務はあくまでも派遣先で行われるのだから、自分の勤務に対する金銭面での授受に関して、情報を公開してほしいと思う。業務区分の撤廃で3年と期間を一律に区切るのであれば、派遣先が正社員として採用しやすいよう、特に金銭面での配慮を願いたい。3年働いた職場には、4年でも5年でもいたいと思う人がほとんどだろう。

派遣業界の中で悪質業者を締め出すといった自浄努力はもちろんだし、派遣業界全体で団結してのアピールも必要だと思う。派遣業界が日本の産業を支えてきた、また支え続けていることに対し誇りをもって業界全体で訴えてほしいと思う。